

授業科目	障害児保育				単位	2			
履 修	選択	関連資格	保育士		ナンバリング	WE21618J			
開講年次	3年	開講時期	通年	該当DP	DP1-1 DP1-2 DP2-1 DP2-2 DP3-1 DP3-2 DP4-1 DP4-2 DP4-3 DP5-1 DP5-2				
担当教員	山根 正夫								
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>実務家教員として、障害児施設での経験を踏まえて、障害のある子どもの保育(保育所・専門機関・家庭での)についての基本的な歴史や理念の変化を理解し、その発達、障害の特性に応じた保育の在り方、他の専門機関・職との連携、保護者・家族の支援について、演習を通じて理解し、実践的な技術を学ぶ。</p> <p>授業の方法として、各回の課題ごとに担当を分担し内容を吟味し発表、討議の機会を設ける。授業参加の学生は予習し準備しておく。</p>								
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害児保育を支える理念や歴史の変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。</li> <li>2 様々な障害やリスクについて理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成について学ぶ。</li> <li>3 障害のある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりの中で育ちあう保育実践について理解をする。</li> <li>4 障害のある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。</li> <li>5 障害のある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。</li> </ol>								
達成度評価									
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考	
総合評価割合	0	0	30	30	30	10	100		
知識・理解 (DP1-1)			5		5		10		
知識・理解 (DP1-2)			5		5		10		
知識・理解 (DP1-3)			0				0		
知識・理解 (DP1-4)									
思考・判断 (DP2-1)			5		5		10		
思考・判断 (DP2-2)			5		5		10		
関心・意欲 (DP3-1)			5		5		10		
関心・意欲 (DP3-2)			5		5		10		
態度 (DP4-1)				10			10		
態度 (DP4-2)				10			10		
態度 (DP4-3)				10			10		
技能・表現 (DP5-1)						5	5		
技能・表現 (DP5-2)						5	5		
技能・表現 (DP5-3)									
具体的な達成の目安									
理想的レベル					標準的なレベル				
障害児保育を提供しているそれぞれの機関における支援の全体像を理解し、個々に応じた支援が展開できる基本的な準備が出来ている。					障害児についての理解と教授・援助・援護に必要な基本的な内容を理解している。				
授業計画									
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法	学習課題(予習・復習)			予習・復習時間(分)	

1	オリエンテーション —障害児保育の今日的な基本的枠組みについて解説する	講義	テキスト関連部分を読み内容を把握し、課題について整理しておく。	30
2	障害があるということ —障害の概念の整理	テーマについてのプレゼンテーションと討議及び解説	同上	30
3	障害児保育の理念 —理念的基盤について	同上	同上	30
4	障害児保育の歴史的変遷 —障害児の療育について歴史的に概観する	同上	同上	30
5	障害の理解と援助の方法1 —肢体不自由児	同上	同上	30
6	障害の理解と援助の方法2 —視覚・聴覚・言語障害児	同上	同上	30
7	障害の理解と援助の方法3 —知的障害児	同上	同上	30
8	障害の理解と援助の方法4 —自閉症スペクトラム	同上	同上	30
9	障害の理解と援助の方法5 —LD/ ADHD	同上	同上	30
10	子どもの発達理解1 —行動観察と記録法	内容についての解説と演習	他の文献等で基礎的内容について学習しておく	30
11	子どもの発達理解2 —発達検査等	同上	各種の標準化された検査法の予習しておく	30
12	個別の支援計画 —アセスメント・プランニングについて	テーマについてのプレゼンテーションと討議、解説	テキスト関連部分を読み、課題について整理しておく。	30
13	障害のある子どもと家族の支援1 —家族と障害の受容を巡って	同上	同上	30
14	障害のある子どもと家族の支援2 —家族と兄弟姉妹の支援	同上	同上	30
15	関係機関との連携 —障害児療育の専門機関・教育機関	同上	前期の学習内容の復習	30
16	子どもの行動と発達援助 —子どもの発達と行動分析1	テーマについての講義	授業の内容について復習し理解しておく	30
17	子どもの行動と発達援助 —子どもの発達と行動分析2	同上	同上	30
18	子どもの行動と発達援助 —子ども発達と行動分析3	同上	同上	30
19	インターベンション(介入法) —発達的に適切な実践とは	テーマについてのプレゼンテーションと討議、解説	同上	30
20	インターベンション(介入法) —個別教授法・ポータープログラム	同上	同上	30
21	インターベンション(介入法) —社会的行動とソーシャルスキルトレーニング	同上	同上	30
22	インターベンション(介入法) —コミュニケーション・インリアルアプローチ	同上	同上	30

23	インターベンション(介入法) —自閉症スペクトラムと介入プログラムの実際	同上	同上	30
24	インターベンション(介入法) —活動に根差した介入1	同上	同上	30
25	インターベンション —活動に根差した介入2	同上	同上	30
26	インターベンション(介入法) —活動に根差した介入3	同上	同上	30
27	インターベンション(介入法) —活動に根差した介入4	同上	同上	30
28	インターベンション(介入法) —活動に根差した介入5	同上	同上	30
29	インターベンション(介入法) —活動に根差した介入6	同上	同上	30
30	全体のまとめ	講義	前後期で学習した内容について全体の復習をしておく	30

理解に必要な予備知識や技能	予備知識として、定型発達についての知識が必要です。
テキスト	伊丹編著「インクルーシブ保育論」ミネルヴァ書房 七木田・山根監訳「子どものニーズに応じた保育」二瓶社
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	上記テキストは学習ノート作成に必要です。その他必要な文献などは授業で紹介します。必要に応じて資料を配布します。
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	授業以外に、テキストを自己学習してのノート作成及びレポートが課せられます。提出期日を守ること、またその内容が評価の対象となります。
達成度評価に関するコメント	実践的には個々の子どもによって状況は異なりますが、少なくとも最低限の発達に対する知識、行動の理解の方法と援助方法についての理解が求められます。